

## 〈2021年度長野大学研究助成金による研究報告〉

### (地域・社会貢献研究)

# 2021年度 塩田平の日本遺産認定ストーリーにおける 文化財活用のための基盤研究報告

古 田 睦 美\*

Mutsumi FURUTA

市 川 正 夫\*

Masao ICHIKAWA

満 尾 世 志 人\*\*

Yoshito MITSUO

横 関 隆 登\*\*

Takato YOKOSEKI

## 1 研究実績の概要

### (1) 研究の全体構想

本学が位置する上田市塩田平は、令和2年6月19日に『レイラインがつなぐ「太陽と大地の聖地」～龍と生きるまち 信州上田・塩田平～』というストーリーをもって日本遺産に認定されたことから、この観光への活用や地域社会への波及効果が期待されている。文化庁の「日本遺産(Japan Heritage)」とは、地域から文化財群と関連した「ストーリー」を募集し、その「ストーリー」を認定する制度であるが、地域において、文化財を活用するストーリーを下支えする学術的な基盤となる研究やストーリーを活用するしくみなどの人間関係資本の形成が不足しており円滑に活用することができないことが地域の課題である。こうした課題の解決のため、上田市日本遺産推進協議会の構成メンバーである地域団体ボランティアガイドの会から本学へ日本遺産推進への協力依頼が提出されている。これをふまえて、本学の観光、地理、水生生物、まちづくりの研究者がチームを編成し、専門的知見から、文化財を活用するストーリーを下支えする学術的な基盤となる研究をおこない、地域からの要請に応えようとするのが本研究の目的である。そのために本研究の成果を応用して、最終的には、塩田平の日本遺産認定ストーリーを

対象に、具体的な体験プログラムおよびそれを伝える媒体としての教材を構築する。1年目にあたる2021年度では、複数の体験プログラムの基礎調査を実施した。

### (2) 体験プログラム基礎調査の概要

上田市の日本遺産ストーリー、構成文化財、活性化計画等について分析を加えた。その成果の一部は上田市日本遺産推進協議会が企画した市民向け講座、日本遺産ガイド養成講座にて報告した。更に「塩田平札所巡り」の体験プログラムを検討するため、塩田平札所巡りの原型として、四国八十八箇所霊場に着目し、讃岐平野エリアを重点的に視察した。対象とした讃岐平野は、霊場を有するだけではなく、平坦な田園風景と溜池が広がり、四国の中で最も塩田平と共通点のある地域である。塩田平の寺社の資源性やその活用性について比較考察した。

認定ストーリーの主軸は、大日如来信仰を表す建造物が多く存在し、その配置にも意味があるのではないかという推測によるものであった。そこで、地域へのヒアリング調査や、塩田まちづくり協議会・塩田ボランティアガイドの会、本学および聖地観光研究所の研究者が共同研究会を実施し、構成文化財にかんする実証的研究をおこなった。本年度は、地域の歴史に関心

を持つ住民にヒアリングを行い、地域の伝承、過去の事実の整理をおこなった。さらに、サンサーベイヤー等のアプリを用いて現地での測定調査をおこなった。その結果、ストーリーに入っていなかった太陽信仰の史跡があること、構成文化財の本尊と建物の向きが関連していることといった太陽の通り道(ray line)思考との関連、および、現在のストーリーに含まれる信濃国分寺以東、生島足島神社以西の肉眼では確認できない距離にある建造物や自然物が直線上に配置されている(ley line)可能性等が新たに発見され、今後塩田まちづくり協議会等と協働して検証していくこととなった。

塩田平のレイラインの原点として生島足島神社に注目した庭園様式調査を実施し、文化を育む基盤となった自然環境から検討を進めた。生島足島神社は、日本庭園史(重森三玲・重森完途著『日本庭園史大系』)において上古時代に位置付けられた学術的価値を有していること、境内には多島式神池の優れた風致景観ならびに生島足島神社と諏訪神社を祀る地割が可視的に参道によって隔てられた意匠が確認されるため、芸術的価値が示唆されることが特徴にあげられた。また、夏至冬至における参道では、太陽の軌道が鳥居の

内部空間と重なる現象が展望できることが広く知られており、動的な太陽の姿と光線の展望地点としての文化的価値も発生することも確認できた。更にデジタル地図による地形分析によって参道と東山・烏帽子岳との視覚的な構造的性等を確認し、これまで意識されなかった生島足島神社に対して学術的価値や芸術的価値等の可能性が示唆される成果が得られた。

塩田平の日本遺産の構成要素として特徴的な雨乞い行事が行われるため池はその造成手法・形状によって、平野部の皿池と谷池に大別される。皿池は池上流部にも水田が広がり水田からの排水を受けるものが多いが、谷池は水系の最上流部にあり、周囲を樹林に囲まれているケースがほとんどである。この二つのタイプのため池はその立地条件によって生物相や地域の生物多様性への寄与も異なると考えられるが、これまで定量的に評価された事例は少ない。本研究ではタイプ別に水生生物相を明らかにするため、塩田地区内の6か所のため池を対象に調査を実施した。その結果、平均して水生生物は皿池の方が豊富に生息している傾向がある等、塩田平におけるため池の生物相の特徴の一端が明らかにされた。